

## 事例ノート. CASE 1

神奈川県 横浜市  
株式会社 横浜アウテリア様

### エクステリアの歴史を重ねた30年の歩み 「予算内で満足の仕上がり」「アフター徹底」を 確かな設計力と工事管理で実現

当社は創業30年。それまでは、エクステリア大手メーカーの前身の会社にいましたが、そこで日本初の門扉やフェンスが製造されたのを機に独立。その卸と販売をしようと思ったからです。

しかし実際にその品物を使って直接エンドユーザーのお客様と取引するには、工事ができなければ…ということで、設計や工事を学び、販店にしていきました。

当社の30年間は、日本のエクステリアの歴史とともに歩んできました。最初の10年はまだ「エクステリア」という言葉もなく、門扉・フェンス・カーポートを取り付けるだけでしたが、珍しさもあり飛ぶように売れましたね。その後、鉄製だった製品にアルミが加わり、品揃えが豊富に。そしてここ10年ほどはお客様の要望が非常に強くなり、トータルなプランが求められるようになってきました。そのため、「職人」と「品物」があればなんとかあった時期を過ぎ、現在はそれに加えて「設計」と「工事管理」が重要になっていると思います。とくに、しっかりした設計ができないと仕事のスタートに立てないので、設計には非常に力を入れています。

スタッフは現在、営業3名（+社長）、設計2名、事務2名。この仕事は奥様との交渉が多く、女性のセンスや生活感が求められるので、設計にもう1名女性を増やしたいと思っています。

実績は月に12~15棟。内訳は、ハウスメーカーからの紹介が3割、エンドユーザーのお客様が7割。広報活動はとくにしていませんが、ほとんどが今までのお客様からの紹介です。

モットーは「値段のわりに満足の仕上がり」「アフターの徹底」。限られた予算でどれだけお客様の要求に応え、デザイン的にもアクセントをつけられるか。また、引き渡し後は、クレームの有無にかかわらず、必ずお客様に手紙を出しています。

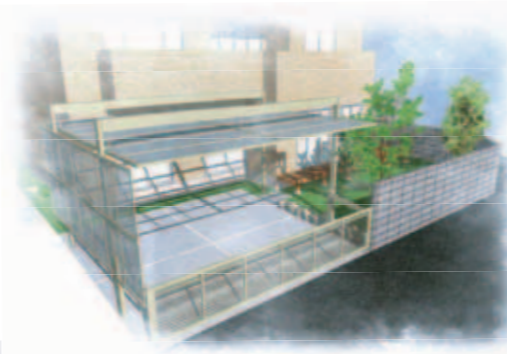
将来的には、優秀な若い職人を育てていきたいですね。現在うちでは6組の専属職人を抱えています。後継者の問題は深刻です。しかしこれは1社で解決できる問題ではないので、たとえば大手メーカーが合同し、われわれ販店が協力して、技術的な育成システムなどをつくる必要があると思います。



代表取締役  
石井 等様



【エクステリア全景】  
敷地の対角線上に2つのカースペースを設置。玄関（写真の右側）にはM.シェード、庭側（写真の左側）にはU.スタイルがバランスよく納まっています。塀と庭木は既存のものを生かしました。



【玄関側のカーポート&アプローチ】  
玄関前には駐車場とアプローチを取りM.シェードを設置。スペースいっぱい、あつらえたような納まりです。「明るいし、車から濡れずに家に入れるのもうれしい」と奥様もご満足。



【庭側のカーポート】  
U.スタイルで2台分の駐車場を確保。フラット屋根が建物のデザインと調和しています。跳ね上げ門扉も設置したので安心。隣家との境には側面パネルをつけて目隠しに。

### M.シェードとU.スタイルでリフォーム S様邸

建物の建て替えを機に、エクステリアをリフォームされたS様邸。建物とマッチしたカーポートをご希望だったので、敷地対応力のあるM.シェードとU.スタイルを採用してピッタリと納め、色も建物のサッシと同じUC色で統一。塀は既存のものを生かして、建物と同じ色調に塗り替えました。庭木は極力残したので、緑の多い落ち着いたたたずまいに。



【玄関口から庭へ】  
門の脇から庭へ抜ける勝手口には、カムフィの門扉を設置。



【隣家との境を間仕切り】  
M.シェードに側面パネルをつけて、隣家からの視線をスッキリとシャットアウト。半透明なので開放感や明るさは損ないません。住宅密集地でのプライバシー保持に有効なアイデア。

### アクセントでさりげなく目隠した二世帯住宅 K様邸

築25年の母屋と同じ敷地内に息子さんの新居を新築、それを機にエクステリアを全面リフォーム。「道から庭があまり見えないように」との要望に沿い、塀の要所要所にアクセントを採用。開放感とプライバシーを両立させた、気持ちのいい庭を実現しました。



【庭から道路を見る】  
玄関アプローチから門扉の方を見たところ。アクセントの縦格子と低木が道路からの視線を巧みに遮り、庭に開放感と落ち着きをもたらしてくれます。左側のステップは母屋へ。



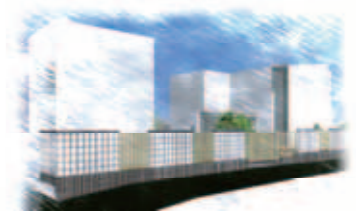
【門~玄関アプローチ】  
門扉を開けると、アプローチが直角に折れ曲がって玄関へと続きます。ステップの緑石やアプローチのラインはすべて直線で、建物のシャープなデザインとコーディネート。



【門まわり】  
門扉はニュービラフェース2型を採用。両脇に設けたアクセントとともに、隙間から視線を通すことで閉鎖感をなくし、やさしい印象のエントランスに。色はUC色で、建物や塀とも自然にコーディネート。



【塀のアクセント】  
塀に等間隔に設けられたアクセント。縦格子の隙間から中の庭の様子が少しだけ見えます。



【エクステリア全景】  
左の建物が新居、右側が築25年の母屋。塀には等間隔にアクセントを配し、道からの視線をさりげなく遮断。全体がグレイッシュにまとめられ、統一感のある外観に。



社屋全景。右側の建物がオフィス、左側は駐車場と資材置き場に。各種建設資材が豊富に用意され、販売も行っています。

